

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における梅香小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学校部第5学年の原則として全児童
- ・梅香小学校では、5年生 41名

3 調査内容

- ・児童に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。
〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立梅香小学校

児童数

41

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.32	19.95	28.61	42.89	48.68	9.05	152.32	21.32	53.61
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.90	21.52	38.19	42.45	40.90	9.32	147.25	14.00	58.26
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

本校第5学年児童の体力合計点は、男子53.61点、女子58.26点であり、男女ともに全国平均を上回る結果であった。男子は反復横とびや立ち幅とび、20mシャトルランなどで高い数値を示す一方、長座体前屈に課題が見られる。女子は立ち幅とびや持久力種目を中心に全国を大きく上回り、全体として高い体力水準にある。運動やスポーツが「好き」と回答した割合は、男子57.9%、女子81.8%であり、女子は全国を大きく上回っている。1週間の総運動時間が60分未満の児童は男子5.9%、女子10.0%と全国より低く、420分以上の割合も高いことから、日常的な運動習慣は概ね定着していると考えられる。今後は体力水準の維持向上とともに、運動への主体的な関わりをさらに高めていくことが重要である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本年度も、体育以外の時間に体を動かす機会を確保するため、「なわとびタイム」や「かけ足タイム」を計画的に実施し、運動が得意な児童だけでなく、苦手な児童も外に出て体を動かすことができる環境づくりに努めてきた。クラス対抗大なわチャレンジも行い、運動に親しむ雰囲気の醸成を図った。その結果、体力合計点は男女とも全国平均を上回り、1週間の総運動時間が420分以上の児童の割合も高く、運動習慣の定着が成果として表れている。また、「トップアスリート夢授業」ではバスケットボール選手のコーチを招き、実技指導や講話を通して運動の楽しさや努力の大切さを学ぶ機会を設けた。さらに、オリックス・バファローズの関係者によるキャリア教育も実施し、スポーツを通して将来について考える機会を創出した。一方で、男子における「運動が好き」と回答した割合は全国を下回っており、今後は体力の向上だけでなく、児童が主体的に運動に取り組もうとする態度の育成を一層充実させていきたい。